

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)	◎	一般小売店〔精肉〕（店員）	販売量の動き	・飲食店への営業時短要請が解除されてから、飲食店向けの販売量が大幅に増えている。
	◎	百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・全店の売上前年比は、3か月前は89%であったが、当月は107%となっておりほぼ20%の回復になっている。来客数は前年の9割程度であるものの、客単価が上がっている状況が今月の特徴である。また、食品は100%と変わらないが、衣料品は各店舗110%前後となり、売上をけん引している。
	◎	衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・暖かくなり、緊急事態宣言も解除されたので外出する人が増えている。
	◎	競馬場（職員）	来客数の動き	・来場者が増加傾向にある。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・今月中旬から商店街では通行量が増え、活気が戻りつつある。消費には依然慎重ではあるが、徐々に回復の傾向はみられる。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・3月は、入試や入学、就業、新生活等変動があり、来店客はいつもよりは活気がある。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・年度末からノベルティ関連や卒業祝い等贈答品の特需が大幅に増加している。また、年度末決算の企業の買占めで、小売業の増加傾向が目立っている。
	○	百貨店（総務担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言解除に伴い、来店客が増加し、これまで好調に推移していた食品スーパーマーケットやドラッグストアに加え、服飾雑貨やアパレルテナントの売上に改善傾向がみえる。飲食テナントでは、ランチが回復しているものの、ディナーや宴会については厳しい状況が続いている。
	○	百貨店（企画担当）	販売量の動き	・外商の客を中心に家具や家電、宝飾等の催事が実績から大幅に伸長している。前年できなかった卒入入学式も行われ、ギフトを含め順調に推移している。また、前年中止した物産催事も今年は開催しており、旅行に行けない分、多くの客は喜んでおり、計画も達成している。
	○	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・3密防止策を念頭に、店頭催事の再開や学校制服採寸の開始で買い回りもあり、午前の来店客が増えているが、相変わらず午後の落ち込みは回復していない。店頭人気催事のオンライン販売への変更やDM抑制もあり、高齢者を中心に来客数の減少、滞留時間の短縮など集客力の低下が継続している。しかし、催事場やクレジット催事は午前中心に客足が戻りつつある。店頭では依然自家需要の紳士トロードや家電製品、嗜好性の高い舶来雑貨、時計等は堅調である。催事場からオンラインへ変更の物産催事は好調な受注が続いている。また、周辺商店街でも警戒が続くなか、春の行楽の県外客を含め人通りは増えている。
	○	百貨店（プロモーション担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除され、春の卒入学や社内異動、引越越し等に関連する買物の動きがみられる。
	○	スーパー（店長）	販売量の動き	・食品は、前年3月より新型コロナウイルスで上振れした月であったが、販売数量が伸長している傾向から、景気はやや良くなっていると判断している。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言発出後は、引き続き夕方の来客数を中心に増加傾向である。
	○	コンビニ（店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言解除後と春先により人の動向が多いため景気は良くなっているが、リバウンドが懸念される。
○	コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・来客数は、前年より伸び悩んでいるが、買上点数と客単価は前年を上回っており、売上も全体で前年比より高くなっている。夏に向けて、このまま進捗すると考えられる。	
○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・従来と同じような年度末になっており、若干安心している。	

○	住関連専門店 (従業員)	お客様の様子	・例年この時期は転居や就職、進学等で寝具需要が高まる。新型コロナウイルスの影響で地元志向が高まるのではと危惧していたが、想定したほどではなく、例年と同様に需要が多い。
○	その他専門店 [コーヒー豆] (経営者)	お客様の様子	・客の動きは前年と変わらないが、店頭への来店はやや減少している。反面、巣籠り需要の影響で1度に購入する量が、若干増えている。客単価が上昇しており、日によっては販売量も増加していることから、前年と比較すると若干良い傾向になっている。
○	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (支配人)	販売量の動き	・新型コロナウイルスによるマイナスの影響が継続しているものの、ワクチン接種といったプラスのニュースも出ており、当県がひっ迫した状況でないため、回復基調にあるといえる。また、前年は3月から新型コロナウイルスの影響が本格化していたこともあり、売上比較でいうと110%程度の伸びで進捗している。アニメ映画のヒットもあり、前年比では集客が伸びており、物販やサービス、飲食と業種関係なく伸長している。
○	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・当県は、新型コロナウイルス感染がここ数日発生しておらず、随分落ち着きを取り戻しており、週末には客が徐々に戻っている。感染対策もしっかりと継続している。
○	一般レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・新型コロナウイルスに慣れてしまっているのか、夜の街に若者が目立つようになっている。夜の街にはマスク姿も減少しており、気が緩んできているようで危惧している。
○	その他飲食の動向を把握できる者 [酒卸売] (経理)	販売量の動き	・3か月前の緊急事態宣言期間と比較すると、売上は1～2割の改善をしている。感染者の増加やクラスターの発生による局地的な落ち込みはあるが、人の動きは出ており、今後良くなると予想している。
○	観光型ホテル (総務)	販売量の動き	・館内のレストランを中心に客足が戻り、単月の売上は今期3番目になっている。宿泊客も少しずつではあるが増加している。
○	都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・緊急事態宣言は解除されたものの、動きはまだ鈍い。
○	タクシー運転手	来客数の動き	・緊急事態宣言発出後、当地では感染者数が比較的少ないとはいえ、催物が多い時期でもあり、若者中心に人も徐々に増加し、タクシーの売上も若干増加傾向にある。
○	ゴルフ場(従業員)	単価の動き	・Webからの予約や、割引券のない定価の客が徐々に増えつつある。税込み表示を3月より実施しており割高感を心配していたが、今のところ問題なく推移している。
○	美容室(店長)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染対策をしながら、客が来店するようになっている。
○	その他サービスの動向を把握できる者 [介護サービス](管理担当)	来客数の動き	・退院した客の利用が増加しており、緊急事態宣言解除によりサービスの中止が減少している。
□	商店街(代表者)	販売量の動き	・人が動く季節になったものの、緊急事態宣言により人の動きが悪くなっており、外出するための衣類の売上が全く良くならない。まだまだ警戒心が強い状況である。
□	商店街(代表者)	お客様の様子	・まだまだ新型コロナウイルスの影響が継続している。商店街では高齢者が客の6割を占めているが、近隣のスーパーマーケットで買物を済ませる人が多い。
□	商店街(代表者)	来客数の動き	・3月は繁忙期であるが、残念ながら緊急事態宣言が解除されても来街来客数は戻っておらず、1月と比較すると若干良くなっている程度で、大変厳しい状況が継続している。
□	商店街(代表者)	来客数の動き	・緊急事態宣言解除後、少しずつ客の来店が戻りつつあるが、一昨年と比較しても程遠い来客数である。

<input type="checkbox"/>	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・暖かくなり、人の流れが良くなっているように見受けられるが、新型コロナウイルス第4波も予想され、中心客である50～60歳代の動きが非常に悪い。特に、アパレル産業が非常に厳しい状況である。
<input type="checkbox"/>	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染が発生したばかりのときは、客はみえない恐怖で買物する状況ではなかったため、来客数も大幅に落ちた。現在は、前年と比較すると回復はしているものの、いまだに必要最低限の購入で、外出や買物に対する慎重さは変わっていない。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	販売量の動き	・店のトレンドに大きな変化はない。食品を中心としているため、まだ新型コロナウイルス対策として外出自粛による需要増が続いているため、好調に推移している。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス禍で厳しい状況には変わらない。春の入学式や卒業式があるが、春休みに入っても来客数の増加はない。そのため、客単価上昇を考え、手軽な食事の品ぞろえやデザート、飲料水を充実させているが、売上の急激アップは見込めない。前年も厳しい状況であったが、それを大きく下回っており、深刻である。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス禍の行動パターンや買物の仕方が定着しつつあり、単身での購入や来店頻度の減少により、自宅で過ごす時間が中心になり、まとめ買いが多い。行楽やイベントでは、グループや家族での来店が減少が続いている。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、多少人の動きは多くなりつつあるが、売上の回復までには至っていない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・緊急事態宣言の解除により、来客数が若干増えている。しかし前年と比較すると、客単価は増加しているが、来客数は大幅な減少となり、その結果売上も減少している。一度来店から離れてしまった生活のパターンは、早急に回復する状況にはない。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・気候は良くなっているが、新型コロナウイルスの影響は依然強く、来街者、来店客共にほとんどない。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・若干人々に心のゆとりが出ていているように感じるが、それでも外出するにはしばらく時間が掛かる。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除になったことで、人の出入りも見受けられるが、買物は非常に冷え切っている。飲食店ばかりがクローズアップされるが、各小売店やその関連業者も同様に厳しい状況である。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの特需が若干残っており、販売数量や単価共に前年を上回っている。新入学や就職のシングル需要も好調である。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・巣籠りやテレワーク需要が一段落しているが、これから給付金による特需もあり、今後の新型コロナウイルス感染の状況によって左右される。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が見通せないため、購入に至らないことが多い。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・3月末で年度決算を迎えるが、新型コロナウイルス禍の影響を受けながらも、前年並みの利益を確保することが見込まれる。
<input type="checkbox"/>	住関連専門店（経営者）	お客様の様子	・今月は、下見のために来店していた客の購入決定が多く、売上は順調にいつている。
<input type="checkbox"/>	その他専門店 [ガソリンスタンド]（統括）	販売量の動き	・燃料油の小売価格は上昇傾向である。3月に入り、前年より暖かい天候が続いているため、ドライブ等によるカーケア商材は順調に販売できている。燃料油の販売量は前年並みの状況である。
<input type="checkbox"/>	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター]（統括者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響による外出や出張の自粛が大きく影響している。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・外出自粛が継続しているため来店客がない。予約だけで営業しているが、若干の予約が入るだけで、フリーの客は全くなく深刻である。

□	タクシー運転手	お客様の様子	・人の動きや予約は増加しているが、まだ不安が残る。
□	タクシー運転手	それ以外	・新型コロナウイルス禍で、ワクチンが一般にも接種できない限り、今の現状を打開するのはなかなか厳しいと予想される。
□	美容室（経営者）	販売量の動き	・3月の売上は、年末からの増加が落ち着いたことで下降状態になっており、低迷したままである。何か対策を考えなければいけないが、新型コロナウイルス禍で客の動向がつかめない状態である。
□	その他サービスの動向を把握できる者（所長）	お客様の様子	・このところ若干円安に振れていることもあり、取引先の業績は好影響であるが、当社までその影響が及んでいない。
□	設計事務所（所長）	それ以外	・金額は以前と同じであるが内容量が減っており、食料品や生活必需品が高くなっている。また、建築材料の価格も高くなっており、手続は増加しているが対価は増えていない。
□	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・マンション販売での来客数は、新型コロナウイルスの影響で相変わらず少ないが、客は物件に興味を持って来店するため、成約率が高くなっている。
□	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染による先行き不安要素も残っているが、戸建て住宅需要が増えていることも実感している。各社ニューノーマルに対応した商品もそろえ競合も厳しい状況である。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・1～2月と比較すると若干売上や来客数が持ち直した感があるが、3月末になり第4波の予兆も報道され、再びつらい状況になっている。
▲	一般小売店〔青果〕（店長）	単価の動き	・外食産業及び大型店では、前年と比較して物の動きが鈍い分、野菜の単価が上がらない。利益率としては変わらないが、低い売上に対しての利益率になり、かなり厳しい利益状態が続いている。
▲	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されたが、売上はすぐに戻らない。外販での売上は大幅減少になり、前年の新型コロナウイルス発生時期より更に売上は落ちている。近隣では、閉店する店も見受けられ、今後が心配である。
▲	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響を受け始めて1年が経過し、特需となった食品、雑貨部門は前年比をクリアできず、一方で不振を極めた衣類は、前年は上回るものの著しい改善とはいい難い状況にある。
▲	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除されているが、巣籠り消費、ステイホーム、学校の休校等新型コロナウイルスの感染状況に慣れも出てきて、前年のような大型スーパーマーケットでの買物需要はない。
▲	衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・12月と比較すると、新型コロナウイルスの報道の増加や緊急事態宣言発出により、緊急事態宣言が解除されたがその影響は大きく、来街者数が激減したため、その結果来客数も激減している。
▲	家電量販店（店長）	お客様の様子	・この時期は例年春の新生活需要でにぎわうが、前月の客の動向から一転し、今日は非常に少ない。前年は新型コロナウイルスの影響、及び法改正の影響で不振であった。携帯電話の復調で、店舗の売上は前年より微増とはなっているが、それを除くと非常に厳しい月になっている。
▲	家電量販店（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍が落ち着いてきたため、来客数や販売量も共に落ちている。
▲	家電量販店（店員）	販売量の動き	・今日は例年と比較すると、若干上向いているが、12～1月と比較すると伸びが悪くなっている。新型コロナウイルスの影響による巣籠り景気で家電の景況は良かったが、3月に入って少々下降気味である。
▲	乗用車販売店（代表）	それ以外	・新型コロナウイルスの影響をかなり受けている。
▲	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・季節要因を考慮すると、光回線の販売が伸び悩んでいる。
▲	学習塾（従業員）	来客数の動き	・申込みが減っているため心配である。

	×	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスによる緊急事態宣言解除を受けて、消費者の巣籠り需要がほぼ終わったとみられ、1か所でまとめて買物を済ませるのではなく、客足はディスカウントストアに一部流れている。
	×	スーパー（統括者）	単価の動き	・緊急事態宣言解除後、外食等の外出も増加しており、内食が減少し来客数も若干減っている。来店客の買上点数や客単価が減少傾向になっている。加えて、競合店との競争も激化している。
	×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・3か月前のGo Toキャンペーンの景気の良い状態と比較すると、回復には程遠く、悪い状況になっている。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言は解除されたが、夜動いているのは20代の若者ばかりで、中高年層の夜間の人出は少ない。
	×	観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーンが停止になり宿泊客が激減した。県民割引の販売が始まっているが大きく影響は感じない。個人客は少しずつ増加しているが、団体客が全滅であるため、宿泊件数としては激減している。
企業動向関連	◎	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・2月から急激に受注が増え、大幅な残業対応している。それでも対応しきれず、納期調整をしている状態である。
(九州)	◎	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・巣籠り需要が健康食品の受注を押し上げている。加えて、消費財に機能性を付加した製品が伸びている。
	○	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・1～2月は厳しい売上であったが、3月は若干上向いている。計画に対して、売上が95%の動きになっているが、外食部門ではまだ不振が続いており厳しい状況である。例年3月は、冷凍食品メーカーや量販店の売上が伸びる時期であるが、4月以降も引き続き上昇することを期待している。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月中旬に入り、引き合い案件の受注量が増えている。業界としては、自動車関連が若干多い。
	○	電気機械器具製造業（取締役）	受注量や販売量の動き	・全事業ではないが、車関連で来期以降の引き合いが増えつつある。
	○	電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・半導体製造装置やパワー半導体関連の受注が増加傾向である。
	○	その他製造業 [産業廃棄物処理業]	取引先の様子	・今までの需要があっても供給できない、作られないといった状況から徐々に増産にシフトしている。まだ少量ではあるが、回復基調である。
	○	金融業（営業担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言が解除となり、気候が暖かくなり、卒業式や会社の移動等もあり、人の動きは3か月前と比較して増加している。取引先の飲食業や来客数や売上も上がっている。
	○	経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・飲食店の時短営業解除後すぐに来客数が増加し、業務用酒販卸も忙しさが増している。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	競争相手の様子	・商社との受注関係取引は、ほとんど変わっていない。年末は、Webのふるさと納税のお陰で売上が伸びていたが、現在の売上は前年と変わらない状態である。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・客の動きによって多少異なり、電子部品は多少の動きがあるものの、自動車関係は動きが悪く、肝心のICチップは供給不足になっている。加えて生産量が制限され、今の状態がしばらく続くと考えられる。
	□	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言は解除となっているが、依然物量は戻らない。見通しとしても良い材料が見当たらない。
	□	通信業（経理担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染者数は減少しており、外出自粛以外の具体策に乏しく、先行きが不透明である。
	□	金融業（従業員）	取引先の様子	・家電販売は回復傾向にあるものの、百貨店や住宅販売は伸び悩んでいる。また、新型コロナウイルス感染者数も一部の地域で再び増加し始めたことから、企業の求人減少、労働需給、雇用者所得とも弱い動きとなっており、厳しい状態が続いている。

	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・地元では新型コロナウイルスの新規感染が沈静化しており、大型商業施設等の客足には回復の兆しがみられる。屋外イベントも会場運営に工夫を凝らしながら再開されており、新型コロナウイルスの影響による取組が徐々に浸透しつつある。
	□	金融業（営業）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響により、景気は中長期的に低迷が続いている。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・半導体関連や電子部品等の製造業で、一部持ち直しの動きもみられるが、一方、外出自粛や時短営業といった経済活動の抑制に直接的な影響を受けている宿泊や飲食店等のサービス業では、低水準での推移が続いている。業界によって景況感に温度差があり、全体としては3か月前と同様に景気は悪い状況である。
	□	新聞社〔広告〕（担当者）	受注量や販売量の動き	・東京からの動きやテレビCM等は景気が上向いているようだが、新聞等紙媒体までは届いていない。
	□	広告代理店（役員）	受注量や販売量の動き	・会社業績が横ばいであり、今後上向く可能性があるが、まだ実績に至っていない。
	□	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先との情報交換では、大きな変化がない企業が多い。
	□	経営コンサルタント（社員）	それ以外	・状況に変化はなく、同業者の情報交換でも、確定申告の時期に当たるため動きがみられない。
	□	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・1～2月の景気は良くなかったため、3月は若干持ち直しており、3か月前の12月と同じような状況である。
	□	その他サービス業〔物品リース〕（職員）	取引先の様子	・緊急事態宣言は一旦解除となっているが、先行き不透明感は継続しており、現状から変動していくとは考えられない。
	▲	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・新しい生活様式に代わり、流通の対応が遅れていることもあり、市況は平年値よりも低めに推移している。
	▲	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・季節商材の製造販売も一段落しているため、やや悪くなっている。
	▲	金属製品製造業（事業統括）	受注量や販売量の動き	・例年第1四半期に向けては受注量が少ないが、民間設備投資の意欲が感じられない。延期、中止がまだ続いており、先行き不安である。
	▲	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・国や県のゼロ債等により発注が多くなり、満足ではないが例年よりは多く感じているものの、市役所のゼロ市債等はほとんど発注されていない。建設業者は、地元の公共工事に依存しており、早めにもっと多くの発注を希望したい。
	▲	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染が発生して1年以上がたち、荷主はどの程度の在庫が適正在庫か把握できるようになり、飲食店向けの食材等が低位安定となっている。半導体等好調な分野もあるが、相次ぐ火災で、今後の見通しが難しくなっている。
	▲	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	取引先の様子	・市町村は、新型コロナウイルス感染防止対策のための予算を計上していることから、行政計画に関する調査や計画策定業務等の委託に関する予算が削られている。そのため、コンサルタントへの発注業務が少なく、受注できる機会が減少し景気が悪くなっている。
	×	繊維工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響をもろに受けているため、仕事の受注量が少ない。
雇用関連 (九州)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人は中小企業を中心に回復傾向である。大手ではリモートやシステム化が進み新型コロナウイルス発生以前に戻すのは困難である。
	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・状態が落ち着き、求人数が微増になっている。ただ、新型コロナウイルス禍で売上が伸びたという注文ではなく、試行錯誤をしながら、人員を補充している状況が多くなっている。
	□	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・派遣に入ってくる受注の業務内容に関して、業界経験必須のものや専門職種的な職種の依頼が多く、求職者が一番多く探している事務業務は余り動いていない。新年度の募集依頼も活発に動いていない。

□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・前年の緊急事態宣言解除後の秋から、徐々に回復傾向を示していたが、2度目の緊急事態宣言で前年比60%からの回復が見込めず現在に至っている。これから、取引先も本格的な営業がスタートするため、4月中旬から戻るのではないかと見込んでいる。
□	新聞社〔求人広告〕（社員）	周辺企業の様子	・新聞広告の量を見ていると、緊急事態宣言発出後よりは良くなっているが、3か月前と比較すると、大きく好転したとはいえない。特に、求人広告の動きが悪く、企業が雇用に慎重になっている姿勢は変わらない。
□	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・緊急事態宣言解除後、飲食業の求人の動きは少しずつ出ているが、相変わらず休業による雇用調整助成金等の申請相談件数は減少していない。
□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数の前年比減少幅は小さくなっており、有効求人倍率も高くなっている。しかし、新型コロナウイルスの終息が見えてこないことから、管内の主たる産業である観光関係の求人の落ち込みは、続いている。
□	民間職業紹介機関（職員）	それ以外	・この春卒業した4年生の内定状況は、ここ数年で一番悪く、リーマンショックのとき以来の状況になっており、特に留学生には、ほとんど求人がない状態である。また、3年生の就活は3月に入り本格化してきたが、早くも内々定をもらっている学生もおり、その割合は前年より高い傾向にある。それは、求人が増えているのではなく、就職難を予想し早くから動いている学生が増えたことと、企業側も新型コロナウイルス禍であるため、早めに採用活動を終わらせたいことも影響しているのではないかと考える。したがって、全体で見ると3年生も厳しい状況であると考えられる。
□	学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き	・2022年卒業求人は、例年どおり動いている。企業の採用活動は活発に動いている。既に内定を得ている学生も見受けられる。
▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	雇用形態の様子	・年度末を迎え、新型コロナウイルスで業績の悪化した企業が、更に人員整理等のリストラを進める動きがある。
×	*	*	*